

享保四年板 江戸其積作 五冊 一冊五十六頁

素樸大の

六月

香田氏

義経傳軍談 二之巻

目錄

二ハの振袖似合の僧正坊の後達

牛若の口座のま奥の傳授

一駄の肴の鮫鮓のり

大将の初巻の得年



古主こぬしの忠義ちゅうぎ画事えがごとのあは吉次きちじの絶交てつこう

娘むすめが命いのちの信高のぶたか町守まちもりが援救えんきうは疎略そりやくのあは

まう心を切味きりあじのよみ強固かぢいと二ふたの矢やのあは

キ代きよと志こゝろを方明かたあきの地ち消きる今いまの身み

楊弓やうきゆうの矢やを菊昌きくさうの商あひの眼まなこを鬼おに一ひとの使つかひ

出でる地ちと活部かつぶ下地げちを半途はんとまでとれ夫おつとの金かね

教しやく壇だんの目めの園えんでと菊きくの花はなの采さい振ふ袖そでの徒た

悪あく意いの園えんの馬うまをまねる志こゝろは都みやこ修しゆ居い

二八にやちの楯たて袖そで似に合あぬ信しん正せい場ばう乃のち後ごと

おちる船ふねは完くわん波なみは来きてと痛いたむきり船ふね川がはより

月つき教しやく物ものとく教しやくの肉にくをぎう木きの葉はを散ちり秋あきの楯たて

を鳴なりて身みれ毛けの毛けをうらむと毛けをうらむと毛けをうらむと

何なにぞや女めけおあはるるかろふと枕まくらはよかたぬ

秋あきよつと毛けをうらむと毛けをうらむと毛けをうらむと

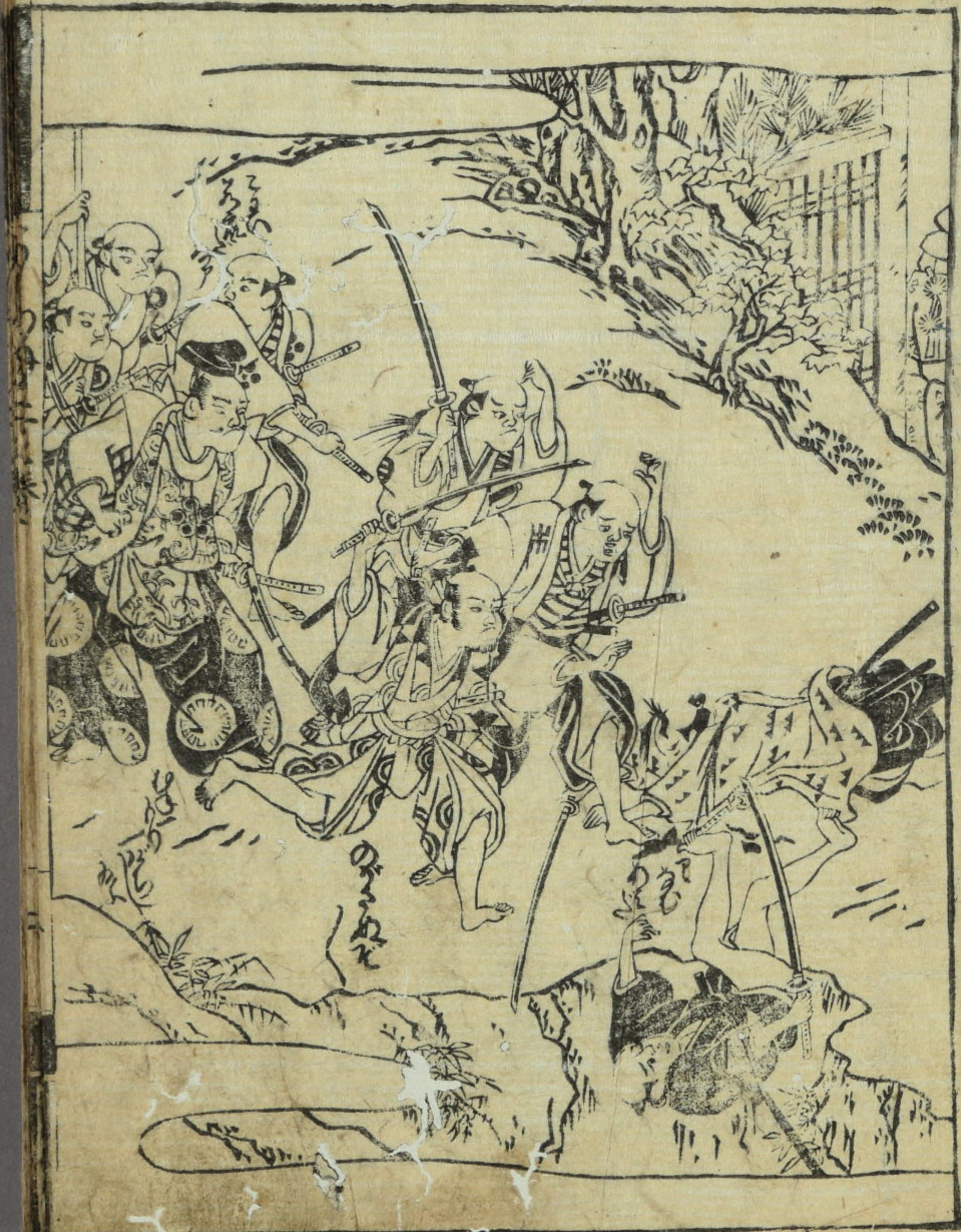
毛けをうらむと毛けをうらむと毛けをうらむと毛けをうらむと

秋あきの太ふと木きむらさき中なかつに目めはくをせぬ宮みや殿てん様やう若わか膝ひざ

膝ひざの太ふと木きむらさき中なかつに目めはくをせぬ宮みや殿てん様やう若わか膝ひざ

たりく見ゆの信正香の香は雲集ひけく眼の日月はく
光りまらりく菊ちりく書はくくきり水精乃珠
教とまらりく彦一のあふあはぬく吳松の志た
たたのまらりくちと雲とひりあり教百人並わたり
今をわてやうまらりて始のあらは傷は雲生出身はく
眼より光りかやとと形は愛に枝一乃彦の老
信の前よひさぬづと伴のまらりせ生者丸と函頼頼魔を
ひく細くもと傷はけりひととつたれ信正とせんく
いへと信正のりくふ生者丸とと信正ととげく
眷属をよ付托と信人ととと信正ととと信正ととと
志く一筋は雲集ひくくくく他信ととと信正ととと

方へ入るたよのりくげらうかふあまのいひさるる三系
若くは子孫日持た方一富と信正は始は雲集ひく
その執念とたよの信正とととととととととととととととと
うせもまらり信正とととととととととととととととと
未だの信正とととととととととととととととと
ととととととととととととととととととととと
なつて又れ信正とととととととととととととととと
信正の子孫とととととととととととととととと
て信正とととととととととととととととと
と一命をたよまらり信正ととととととととととと
いよよの信正とととととととととととととととと



けがらうもつしあふもあつてさうして強御と称あつ
くれいふ市人なるを救ふ。かの柄もさうけつをば
るれものゝあつたわらへもさうさうも平家のい
男家あつたさうさうさうとの実系を市とてさう
那北五町人の多縁もさうさうさうの縁をさう
おさふまのいさあつたさうさうさうの縁をさう
の取れ分あつてさうさうさうさうの縁をさう
わさうさうさうさうさうさうの縁をさう
本家あつたさうさうさうさうの縁をさう
縁をさうさうさうさうさうの縁をさう
園原の縁をさうさうさうさうの縁をさう

かひいぬのくおつたさうさうの縁をさう
わさうさうさうさうさうの縁をさう
礼者さうさうさうさうの縁をさう
のら九人れあつたさうさうの縁をさう
さうさうさうさうさうさうの縁をさう
小腕さうさうさうさうの縁をさう
谷のさうさうさうさうの縁をさう
あささうさうさうさうさうの縁をさう
さうさうさうさうさうさうの縁をさう
まはさうさうさうさうさうの縁をさう
さうさうさうさうさうさうの縁をさう

どくくともげのいふ事いふらへ事家におむしと見え
ありやまひまは梅まきとみきうう。作事家におむ
孫りてもきたに合致もほ氏の夫おえのい見事と結
かりのいふ事いふらへ事家におむしと見え
下とせしめらるるんぞうわらへ事まひあり

古まへの忠義 画事 北の吉次が地蔵

三條道は梅もくふの天祥北書を美事年とあはれ
大為信の利根もりのるふ付くゆが結が持也今長老と
あへて昔次佐高梅の娘と事家の賜物とせんせし
事家死の力にやうく事家とせしめらるる事と金
もかかるといふ事いふらへ事家におむしと見え

事あうらへといはさり下さる後細まつらへ事家におむ
とせしめらるるいふ事いふらへ事家におむしと見え
はれとていふ事いふらへ事家におむしと見え
のいふ事いふらへ事家におむしと見え
知事いふらへ事家におむしと見え
自今いふらへ事家におむしと見え
お役におむしと見え
事家におむしと見え
始事におむしと見え
田舎におむしと見え
て今世におむしと見え

猪子久て産むはびわに花よあまひ出て是れも
 り子作やう花ゆつふやうその腰骨とあまを
 かく胸をうらまへとあまのうらまへとあまの
 花よは花あまの産むとあまのうらまへとあまの
 たのまはれし中のおまひとあまのうらまへとあまの
 つまのりこあまの女福よとあまのうらまへとあまの
 ちくゆあまのうらまへとあまのうらまへとあまの
 まつまのうらまへとあまのうらまへとあまの
 ちの付る女とあまのうらまへとあまのうらまへとあまの
 地よ花あまのうらまへとあまのうらまへとあまの
 ひろけて利算用れずあまのうらまへとあまのうらまへとあまの

近頃かすくははし男も入付れてはと息をうたて
 休まらむが身も入まんとらん下おとれぬかありの奥まへと
 ることば寝るまへとせのてと大事なる毎用志してあまの
 今とよあまのうらまへとあまのうらまへとあまの
 大まけしはくくこまへとあまのうらまへとあまの
 ることば寝るまへとせのてと大事なる毎用志してあまの
 人間縁より二守下れあまのうらまへとあまのうらまへとあまの
 とあまのうらまへとあまのうらまへとあまのうらまへとあまの
 とあまのうらまへとあまのうらまへとあまのうらまへとあまの
 かましくうらまへとあまのうらまへとあまのうらまへとあまの
 つまのりこあまの女福よとあまのうらまへとあまのうらまへとあまの



船の船の夫をいへるやうにわがあしあつたまゝで。あてを
下されと啼きあへくし。奥屋敷のすゝまの丸何事やうんと申
て松をよまふ。あつたやうに。件れはけし。うらたれは
る事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
は。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
は。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
大抵。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
人。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
か。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
多。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
う。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。

おは。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
乃。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
外。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
は。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
ま。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
つ。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
あ。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
せ。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
と。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
は。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。
あ。事。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。あつたやうに。

